

# 徳島文理大学通信



徳島文理大学  
アドミッションズ・オフィス  
徳島市山城町  
〒770-8514  
0120-60-2455

## 進化する大学 台北医学大学など3大学3高級中学と 交流協定を結ぶ

村崎理事長が台湾を訪問



台北医学大学との学術交流協定締結

11月6日(土)から12日間台湾を訪問した村崎理事長は、8日(月)台北市立南湖高級中学、13日(土)樹徳高級家事商業職業学校、14日(日)樂育高級中学と高大連携協定を結んだ。高級中学とは日

本の高専学校にあたるものがある。南湖高専は台北市にあり生徒数13000人を要する屈指の進学校である。樹徳家商職は高雄市にあり8500人を擁するマノモス校で専門高校として訪れた。

台湾トップクラスの教育レベルにあり大変活気のある学校である。楽育高専も高雄市にあり、音楽科を有し、伝統的に音楽教育に大変定評がある学校である。本学訪問団はそれぞれ

この他、8日(月)台湾の文科省にあたる「教育部」幹部と、10日(水)高雄市教育局長他との会談が行われ、相互理解が深められた。12日(金)には連携校の台中市「新民高級中学」を表敬訪問し、13日(土)には姉妹校の「中山医学大学」創立50周年記念の盛大な式典に参加し、理事長は来賓として祝辞を述べた。また、16日(火)は、すでに生徒、教員が本学を訪れるなど、かねてより親交のある高雄市立三民高級中学を表敬訪問したところ、校長はじめ幹部職員、歴代保護者会長や保護者代表の熱烈な歓迎を受け親睦・相互理解が深められた。なお、今回の協定締結により、台湾での協定校数は合わせて4大学4高級中学となった。

徳島における学術芸術活動を支援し醸成することを目的とした「学術芸術は豊かな未来への架け橋」第28代東大総長小宮山宏講演(人間国宝) 山本邦山尺八演奏会」が12月11日(土)、むらさきホールで開かれ、1200人の聴衆が耳を傾けた。

東京大学の小宮山宏前総長は、「プラチナ社会がや

「静寂」を独奏したほか、自ら作曲した「尺八とフルートのための三籟」を本学のフルート奏者板東久美音楽学部准教授と熱演し、深みのある調べに賞賛の声が寄せられた。

また、学生と教員で編成された徳島文理大学室内管弦楽団とも共演して、「小諸馬子歌」、「八木節」、「稗

宮山宏氏とともに徳島県の飯泉嘉門知事もパネリストとして参加し、「学術芸術が心豊かな暮らしを創造する」徳島が描くプラチナ構想」をテーマに白熱した意見が交わされた。

人間国宝の山本邦山氏は、「祖谷の粉挽き節」や「静寂」を独奏したほか、自ら作曲した「尺八とフルートのための三籟」を本学のフルート奏者板東久美音楽学部准教授と熱演し、深みのある調べに賞賛の声が寄せられた。

また、学生と教員で編成された徳島文理大学室内管弦楽団とも共演して、「小諸馬子歌」、「八木節」、「稗

ました。試合は観客がい

台湾トップクラスの教育レベルにあり大変活気のある学校である。楽育高専も高雄市にあり、音楽科を有し、伝統的に音楽教育に大変定評がある学校である。本学訪問団はそれぞれ

### 前東京大学総長と人間国宝の共演 学術と芸術の コラボレーション

徳島における学術芸術活動を支援し醸成することを目的とした「学術芸術は豊かな未来への架け橋」第28代東大総長小宮山宏講演(人間国宝) 山本邦山尺八演奏会」が12月11日(土)、むらさきホールで開かれ、1200人の聴衆が耳を傾けた。

### ACANTHUS

今年の干支であるウサギについて、誰もがまず思い浮かぶのは「ウサギとカメ」のお話でしょう。



小泉総理大臣の時、種々の規制が緩和され、競争が奨励されました。しかし、競争によって、世の中がよ

なりましたと実感している人は少ないのではないのでしょうか。これは、私たちが競争という言葉の意味を取り違えていることに起因しているのでは無いかと思

## 競争と協同

学長 桐野 豊

争であれば全体のレベルアップにつながるはずですが、切磋琢磨といった類の競争には、誰も好感を抱くに違いありません。しかしながら、最近、相手の足を引く張ったり、相手をおとしめたりするような醜い「競争」が多く見受けられます。

これは日本の社会が、人間関係の希薄な社会になってきていることを示すものであると思います。自殺率が先進諸国で最も高いことや、各地で孤独死が伝えられることなどは、日本人が孤独であることを示していると思

たと思われま。孤立した状態での「競争」すると、とても厳しい精神状態に追い込まれることになるでしょう。かつては、日本は個人主義の社会ではなく、「和をもって尊し」とする共同体社会であるといわれていま

も激しいといわれる米國では、自分よりも優れた研究者が現れると、その偉大さを認め、その人を助ける役割を務めることで、科学に貢献しようとする人が多くいといわれていま。私のわずかな経験でもまさにこのように感じています。

私たちがアジア競技大会に参加したローラースポーツは今回新競技として入ったスポーツの一つでした。別名アジアオリンピックという大会でも過言ではないという大会に出場が決定したときは嬉しさと同時に、プレッシャーも大きいものでした。

経済学者の大竹文雄氏(大阪大学教授)の著書『競争と公平感』市場経済の本当のメリ

であるのに対し、日本では59%しかありません。個人の自己責任を重視する米國でも70%もあることと比べると際だって少ない数値だといえます。

最近、日本の科学研究の在り方、研究補助金の配分の在り方を考えている多く

私たちがアジア競技大会に参加したローラースポーツは今回新競技として入ったスポーツの一つでした。別名アジアオリンピックという大会でも過言ではないという大会に出場が決定したときは嬉しさと同時に、プレッシャーも大きいものでした。

私たちがアジア競技大会に参加したローラースポーツは今回新競技として入ったスポーツの一つでした。別名アジアオリンピックという大会でも過言ではないという大会に出場が決定したときは嬉しさと同時に、プレッシャーも大きいものでした。

### ローラースポーツ男子フィギュア アジア大会「金」

西木紳悟選手(人間生活学部児童学科4年)



中国・広州で開かれた第16回アジア大会のローラースポーツ男子フィギュアで西木紳悟(人間生活学部児童学科4年)選手が金メダルに輝いた。

私たちがアジア競技大会に参加したローラースポーツは今回新競技として入ったスポーツの一つでした。別名アジアオリンピックという大会でも過言ではないという大会に出場が決定したときは嬉しさと同時に、プレッシャーも大きいものでした。

### 2011 オープンキャンパス日程

3月21日(祝・月)	【徳島キャンパス】	
5月21日(土)	3月20日(日)	【香川キャンパス】
7月16日(土)	6月19日(日)	
8月4日(木)	7月18日(祝・月)	
8月5日(金)	8月7日(日)	
9月23日(祝・金)	8月21日(日)	
	10月2日(日)	

# 表彰に輝く

**瑞宝小綬章**  
梅枝 紘一 総務ユニット長

**瑞宝小綬章**  
平成22年度 徳島県表彰  
中原 祐一 教育・研究支援  
ループ長

**瑞宝単光章**  
瑞宝単光章 伸 技師

**堀尾幸太郎** 事務

**文部科学大臣教育功労表彰**  
上田 和子 教授

**第9回 Asia Science Seminar 功労賞**  
瀬津 弘順 教授

**第9回 Asia Science Seminar 大会長賞**  
井上 正久 准教授

**短期大学教育功労者文部科学大臣表彰**  
村崎 正人 理事長

**平成22年度 日本薬学会中国四国支部奨励賞**  
江角 朋之 講師

**第20回金属の関与する生体関連反応シンポジウム優秀ポスター賞**  
小田 真隆 講師

**日本分析科学会 先端技術賞 JAMA機器開発賞**  
山口健太郎 教授

**「シンポジウムモレキュラーキラルティ2010」2010 Molecular Chirality Award 2010 受賞**  
東屋 功 教授

**日本酸化ストレス学会学術奨励賞**  
石原 康宏 助教

**香川県教育委員会教育功労賞**  
福井 信夫 学務・入試グループ長

## 香川総合医療教育研究コンソーシアム 第三回フォーラムを開催

12月19日(日)、香川キャンパスの村崎サイメモリアルホールにて、香川総合医療教育研究コンソーシアムの第三回フォーラムが開催された。

午前中は本事業に参加し



香川総合医療教育コンソーシアムの会場となった香川キャンパス村崎サイメモリアルホール

12月19日(日)、香川キャンパスの村崎サイメモリアルホールにて、香川総合医療教育研究コンソーシアムの第三回フォーラムが開催された。午前中は本事業に参加し、午後からは「フォーラム」が開催され、事業の統括である本学の桐野豊学長の挨拶のあと、日本病院薬剤師会の堀内龍也会長から「チーム医療の推進」病院から地域へという特別講演をいただいた。続いて事業報告があり、推進委員長である香川大学医学部の上田夏生教授から、学部ならびに大学院での共同授業などについて、さらには高島衣里(工学部臨床工学科3年)さんから、学生交流について報告があった。また、香川薬学部の飯原なおみ准教授による「電子処方箋の進捗状況」の報告もあり、11月29日(月)には香川大学医学部附属病院から調剤薬局に対して電子処方箋が初めて送付されたことも示された。

なおこのコンソーシアムは、文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携推進プログラム」からの助成を受けており、今年度が助成の最終年度であるが、今後も参加大学の努力のもとで継続させていくことと、多くの事例を挙げ

## 「教員養成コンソーシアム四国」第二回フォーラム

「教員養成コンソーシアム四国」第二回フォーラムが、12月19日(日)、徳島キャンパスのアカサスホールで、3大学の学生を中心に、高校生、幼小中高の現職教員、教育委員会、一般の方、大学教職員、約300人が参加をして開催された。

連携大学である高松大学佃昌道学長の主催者挨拶に続いて、「教員養成コンソーシアム四国」の概要と運営部の取り組みが報告された。教職課程部では「教職実践演習」の授業開発と「教職ポートフォリオ」の作成と活用、教育内容改善・充実部では新学習指導要領に対応して小学校外国語活動・伝統文化に関する教育・理科教育の充実の取り組み、地域連携部では高大連携と学生ボランティア充実の取り組みが報告された。

学生発表では、四国学院大学1年の香西さくらさんが「平賀源内先生子ども科学教室に参加して」と題して、半年間、9回にわたる「平賀源内先生子ども科学教室」に参加して子どもたちと関わった体験を報告した。

最後に、教育評論家である政大教授の尾木直樹氏から、「これからの教員に求められるもの」に関する教育課題に向けて」というテーマで講演があった。

世界の中で、日本の教育がおかれている現状をわかりやすく説明しながら、教員に求められるものとして

- 1 情勢認識力(洞察力)
- 2 グローバルな視点
- 3 同僚性
- 4 子どもとの関係性(信頼)

の4点が重要であるということと、多くの事例を挙げ



今回のフォーラムにおいて、学生スタッフが発表や運営に参加すること、内容が充実したものが、今後も学生スタッフの企画・教育課題について熱演する尾木直樹氏(法政大学教授)徳島キャンパス・アカサスホール

## 徳島文理大学文学部 比較文化研究所 公開講演会

10月16日(日)13時30分から1時間30分に渡り香川キャンパスのAVホールにて公開講演会が開催された。講師は本学の姉妹校である檀國大学から来られたソン・ビョンオ客員准教授。題目は「冠婚葬祭から見た韓国社会」である。

当日会場はほぼ満席状態で、韓国の社会、文化に対する日本人の興味の高さを感ずる。ソン先生の講演は、韓国社会における冠婚葬祭の意義の深さに関し、ご自分の経験も踏まえながら、また時折ユーモアを交えながら、大変理解し易い工夫がなされていた。特記すべきは、日本との比較である。特に「葬」に関しては、日本に比べて、一家の長男にかかる比重が大変大きく、それが「婚」にもつながってゆくという説明は、実に説得力があった。

ソン先生は日本で博士号をとられ、日韓の文化の比較研究には学識が深い。エピソードの多さと、語り口の滑らかさは、聴衆を魅了する面白さに溢れていた。

講演後の質問の時間も十分にあったが、瞬間に時間が経過し、質疑応答を打ち切らざるを得なかったのは、それだけ全聴衆の興味を引いていたということであろう。まずは大成功に終わった講演会であった。

## 日中韓生薬学合同シンポジウム および徳島県総合薬草展の開催



薬学部教職員、徳島県薬学協会、本学クラブ活動の薬用植物研究部の3つの組織が互いに協力しながら、

徳島県で生育・栽培されている薬草を用いる健康増進運動を進めている。

9月24日(金)から26日(日)に徳島キャンパスで、日本生薬学会第57回年会および第五回日中韓生薬学合同シンポジウムが開催され、中国、韓国の生薬研究者50人を含む、約800人の研究者が参加した。シンポジウムに併せて、徳島県薬草協会との共同主催で、徳島県総合薬草展を開催した。

薬草展の企画・運営は、薬用植物研究部の学生ら十数人が行った。徳島県下各地の主要な薬草・薬木の展示、薬酒・果実酒の展示、

## 知的障がい者と子どもを結ぶ 科学教室の開催

理工学部では、学内外のさまざまなイベントで科学とふれあう機会を提供している。参加者に制限を設けないことから、小学生を中心に、乳幼児から大人までさまざまな参加者が訪れる。

5月16日(日)にさぬき市長尾で開催された「みんなD Eみんなのほらんていあ祭」や10月16日(土)から17日(日)にナノ棟1階で開催された「ひらめき・ときめき☆サイエンス」大学の研究室に行こう!は、小・中・高校生に大学の研究室に来てもらう、大学で行われている高度なサイエンスを直接体験してもらおう、という事業である。主催は日本学術振興会、科研費の研究成果を社会に還元することが目的である。

今年度は、薬学部の橋本敏弘教授(8月1日)「漢方薬の調製・生薬の組み合わせ」、香川薬学部の岩田誠教授(8月7日)「みんなのからだは戦っている!!」から防衛軍の素顔をのぞいてみよう、理工学部の松田和典教授(10月24日)「マイクロセンサーが開く世界―ゲーム機から宇宙開発まで―」の3つのプログラムが実施された。特に薬学部のプログラムに対しては、募集人数(25人)は08年度以来、3年続けて延べ11のプログラムが採択された。

これらのプログラムでは、実験や調査を体験してもらい、昼休みには教授や大学院生と一緒に食事をしながら、気軽に話ができることも多かった。

「さぬき市志度地区ボランティアネットワーク」では、活動報告会と科学教室を実施した。ここでは、知的障がいや体の不自由な人の参加数も多く、本学学生や小学生と一緒に楽しく友人のように学んでいる姿は、まさしく「バリアフリー」そのものであった。

科学教室は、一方通行ではなく、困ったときにそっと手を貸す配慮と、楽しい笑顔になるために何が重要か?工学にとつて最も重要なことを考え直す良い機会となる。今後も科学を中心として、教員・学生・地域が一体となって楽しいひとときを共有できることを願う。

これほどの採択数は全国でもほとんど例がなく、本学が科研費を多く取得していること、また、その研究成果を社会に還元することに熱心であることの証しとなっている。

参加した中、高校生は、サイエンスのおもしろさだけでなく、本学の研究レベルの高さも体感していた。

「ひらめき・ときめき☆サイエンス」大学の研究室に行こう!は、小・中・高校生に大学の研究室に来てもらう、大学で行われている高度なサイエンスを直接体験してもらおう、という事業である。主催は日本学術振興会、科研費の研究成果を社会に還元することが目的である。

今年度は、薬学部の橋本敏弘教授(8月1日)「漢方薬の調製・生薬の組み合わせ」、香川薬学部の岩田誠教授(8月7日)「みんなのからだは戦っている!!」から防衛軍の素顔をのぞいてみよう、理工学部の松田和典教授(10月24日)「マイクロセンサーが開く世界―ゲーム機から宇宙開発まで―」の3つのプログラムが実施された。特に薬学部のプログラムに対しては、募集人数(25人)は08年度以来、3年続けて延べ11のプログラムが採択された。

これらのプログラムでは、実験や調査を体験してもらい、昼休みには教授や大学院生と一緒に食事をしながら、気軽に話ができることも多かった。

44人が参加した薬学部プログラム



生薬から紫雲膏を練る高校生(薬学部にて)

# 保護者のための キャンパス見学会を開催

オープンキャンパスの開催に合わせ、在学生の保護者に学生の学ぶ教育環境を公開し、本学教育への理解を得る目的で、「在学生保護者のためのキャンパス見学会」を10月2日(土)に徳島キャンパスで、10月3日(日)に香川キャンパスで開催した。

当日は、徳島・香川県内にほととより岡山・鳥取・兵庫・大阪・愛媛・高知などからも送迎バスを利用して、両キャンパスで54人の保護者が参加した。受付・オリエンテーション、学食でのランチ、ミニコンサート、就職講演会の後、学科長や担当者が実際に学生が利用する施設・設備や研究室など学科別施設を案内した。また、キャンパス内のカフェやお茶室で一服、阿波踊りやよさこいなど学生クラブの演技を見学した。

参加した保護者からは、「学科別施設見学会では学科の学びを丁寧に説明をしていただき、子どもがこれか知らないことを学んでいくことができて大変良かった」「施設の充実、学ぶ環境が素晴らしいと感じた。子どもと情報を共有でき会話話が広がる」「チューター

の先生や、所属講座の皆さんにお会いできて良かった」「来年もぜひ開催してほしい。せっかくの機会なのでもっと大勢の方に参加していただければ」との意見が寄せられた。開催のお知らせが十分周知できていなかったなど今回の反省もふまえ、今後、保護者の皆様からのご意見を伺い、多忙ななか参加された保護者の皆様、ありがとうございました。

# 東新町アーケード内に まちかど教室を開設



徳島市東新町2丁目のアーケード内、新町三井ビル2階に、「徳島文理大学まちかど教室」を開設した。大学の地域貢献研究事業の一環として、「徳島文理大学特色ある教育・研究」で採択された資金を活用し、新町三井ビルの2階の約80平方メートルの空き部屋に、大学から折りたたみ机、椅子、パソコン、ディスプレイなどを搬入し、授業ができる教室に改修した。時を同じくして新町三井ビルの1階には、大学そばの沖浜からハルジオンカフェが移転開業し、東新町に新たな賑わいを生み出した。

まちかど教室は、「徳島文理大学の教室」で行っていることは何でもできる」をコンセプトに、大学が行うさまざまな授業・実習・会議などに活用する。学生がキャンパスとまちかど教室を往復することで、中心市街地に人の流れをつくり、地域の活性化に本学が貢献するという目的がある。これまで、「市内で働く卒業生を帰りに呼んで仕事について聞こう」「県協議会と徳島文理大学の連携」など、まちかど教室の活用が予定されている。本学のもつポテンシャルが徳島市地域に広まり、中心市街地の活性化の一役買うことができるものと期待されている。

# 学内ブライダル ファッションショーを開催

短大生活科学科生活科学専攻ブライダルファッションコースは、12月17日(金)昼休みの時間にポストンホールでブライダルファッションショーを開催した。ファッションショーは、「ブライダルコーディネート」「ブライダルプランニング」の授業で学んできたことの実践と成果発表の総仕上げとして行われた。受講者36人(人間生活学部人間生活学科2年生3人含む)を2チームに分けて、11月26日(金)からの3回の授業で準備した。学生は、モデル、スタイリスト、プロデュースのいずれかを担当した。モデルは衣装を綺麗に見せる歩き方・ドレスのトレーン捌き・ベールやブーケの扱い方を学んだ。スタイリストは、衣装選び、コーディネート、ヘアメイクを決め、ヘッドドレスやウィッグでの変化のつけ方を研究し、モデルにヘアメイク、着替えを行った。プロデュースは、全体の

流れを決めて、台本を作成し音楽や演出を担当した。司会やナレーションも担当し、音楽を流したり、モデルを歩かせたりするなど20分のショー全体のコーディネートを行った。本番は、施設や音響機器など音楽学部の協力をえて行われ、200人余りのギヤラリーにも恵まれ、華々しいショーに成功のうちに終わることができた。学生たちは達成感に感動していた。彼女たちの学生生活にとって大きな財産となったと確信している。

メディアデザイン学科の古本研究室・篠原研究室の学生が、地域活性化を目的としたNPO法人「Awatertab」(申請中)を設立し、徳島県内の文化財の発信やイベントの企画、電子書籍製作など幅の広い活動している。その活動の一環として徳島大学・小松島高等学校と連携し、11月28日(日)に行われた徳島ヴォルティス最終戦のイベントを総合プロデュースした。学生は、会場のLEDライトアップ企画や、パティシエコー

からもチームを迎え入れ、記念すべき大会となった。競技会には本学をはじめ徳島大学、香川高専、阿南高専、津山高専から計21チームが参加し、本学理工学部からは、機械創造工学科4チーム、機械工学部1チームの計5チームが参加し、昨年度の雪辱を果たすべく競技に臨んだ。今大会の競技は、2010 FIFAワールドカップをモチーフにし、ピンポン球をサッカーボールに見立てて、パス・ドリブル・シュートを行うという、例年になく難しい課題となった。予選リーグでは、1位通過1チーム、2位通過1チームと好成績をおさめ、それぞれ決勝トーナメントに進出した。惜しくも勝ち進むことはできなかったが、残りの1チーム「ドケイトエビオダチ」号がデザイン賞を受賞した。

入海祐太(工学部機械創造工学科3年)  
高岡大樹(同3年)  
橋本瑠平(同3年)

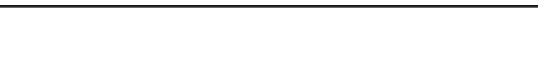
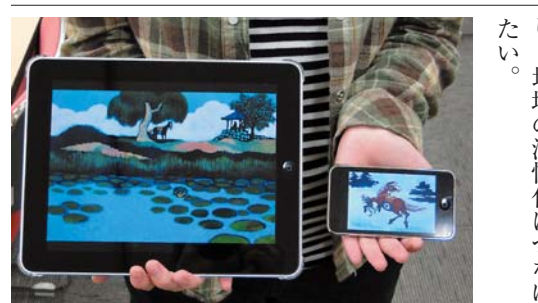
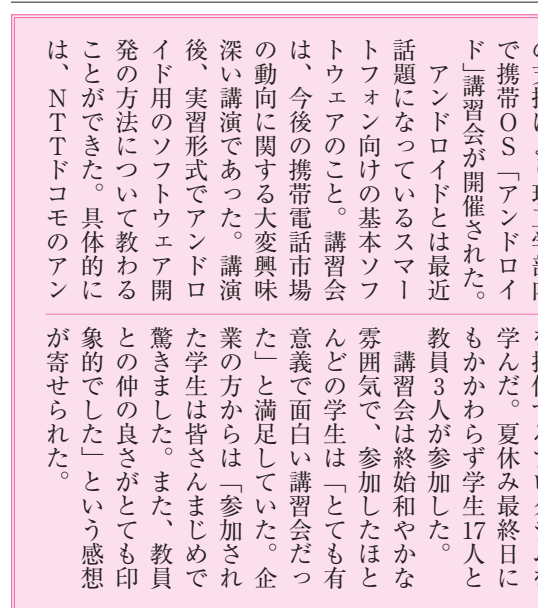
# 徳島ヴォルティス最終戦 イベントを 総合プロデュース

影サービス・お菓子のつかみ取り・バルーンアートコーナー等の6つのブースで展開、さらに、和太鼓やダンスサークルをはじめとするステージショーといった盛りだくさんな企画を実施し、イベントの成功に貢献した。特に、当日の目玉イベントであるハンドベルコンサートとLEDライトアップ点灯式のコラボレーションによって、来場者は一足早いクリスマス気分を満喫した。当日は1000人余りの本学学生らがボランティアとして参加した。自立協同の建学の精神のもと、地域に貢献できたばかりでなく、本学の取り組みについて広く発信することができたことは大きな成果であり、実りの多い貴重なプロジェクトであった。

理工学部では、ものづくり教育の一環として、約10年前から2輪車に対してガソリンエンジンからモーターへの改造を行っていた。昨年からこれを4輪車に對しても行っている。ガソリン自動車から電気自動車への改造はほぼ終わり、現在は車検取得を行っている。この車検取得には、装着が必要になる。このような装備装着も順調に進んで、近々車検を取得できる見込み。

電池は最近のリチウムイオンバッテリーではなく鉛バッテリーを使用しており、それだけ重量は大きくなるが、それでも平坦地で時速60キロ程度の走行が可能である。種々のデータ採取を行いながら、今後、より性能を高めていく予定である。

この作品は、メディアデザイン学科古本研究室、篠原研究室の学生10人で作るNPO法人「Awatertab」(申請中)から出版され、12月1日(水)に開設される四国初の電子書籍販売サイト「webDBook」から配信・販売される予定。また、NPO法人「Awatertab」は、本学の建学精神「自立協同」の教えをもとに、徳島の活性化(地域貢献)を目的として設立され活動している。これからも、徳島県に残る民話を「電子書籍」として世界へ発信することにより、地域の活性化につなげたい。



# 改造電気自動車の 車検取得間近か

理工学部では、ものづくり教育の一環として、約10年前から2輪車に対してガソリンエンジンからモーターへの改造を行っていた。昨年からこれを4輪車に對しても行っている。ガソリン自動車から電気自動車への改造はほぼ終わり、現在は車検取得を行っている。この車検取得には、装着が必要になる。このような装備装着も順調に進んで、近々車検を取得できる見込み。

電池は最近のリチウムイオンバッテリーではなく鉛バッテリーを使用しており、それだけ重量は大きくなるが、それでも平坦地で時速60キロ程度の走行が可能である。種々のデータ採取を行いながら、今後、より性能を高めていく予定である。

この作品は、メディアデザイン学科古本研究室、篠原研究室の学生10人で作るNPO法人「Awatertab」(申請中)から出版され、12月1日(水)に開設される四国初の電子書籍販売サイト「webDBook」から配信・販売される予定。また、NPO法人「Awatertab」は、本学の建学精神「自立協同」の教えをもとに、徳島の活性化(地域貢献)を目的として設立され活動している。これからも、徳島県に残る民話を「電子書籍」として世界へ発信することにより、地域の活性化につなげたい。

# 決勝進出も惜敗 デザイン賞を受賞

SMART 2010

デザイン賞

# 民話の電子書籍を完成 「赤池の河童」配信予定

人間生活学部  
メディアデザイン学科

# 265人が練習の成果披露

## 第二回徳島音楽コンクール開催

10月16日(土)、17日(日)の2日間にわたり、徳島キャンパスで第二回徳島音楽コンクール(本学主催、徳島新聞社共催、徳島県、NHK徳島放送局、四国放送後援)が開催された。審査部門はピアノ・声楽・弦楽器・木管



電子オルガン部門 大学一般で銀賞を受賞した脇本菜緒(短期大学部音楽科2年)さんの演奏

賞、2人が銀賞、2人が銅賞を受賞している。さらに全金賞受賞者の中から部門ごとに代表1人が選出され、「入賞記念ガラコンサート」(11月27日(土)むらさきホールで開催)に出演。同コンサートには本コンクール顧問の飯泉嘉門徳島県知事、松村寛徳島新聞社理事会長を審査員に迎え、村崎正人会長はじめ計15人の審査員が審査を行い、もともと優れた演奏者に贈られるグランプリには、山下諒さん(ピアノ)と、武田章寛さん(ヴァイオリン)の2人が選出された。また今回、審査員特別賞として邦楽アンサンブル「KOTO〜箏寿〜HOGI〜I」(中学校の部)が選ばれた。グランプリの2人は今年9月に開催される演奏会で一流オーケストラと共演する予定。

畿地方、東京からの参加があり、一昨年の第一回目よりもさらにレベルアップしたコンクールとなった。厳正なる審査の結果、各部門の年齢区分ごとに「金賞」「銀賞」「銅賞」「入賞」「奨励賞」を決定し、徳島音楽コンクール会長である本学の村崎正人理事長らが表彰を行った。本学学生は3人が金

**第2回徳島音楽コンクール**  
**金賞は新たなスタート**  
 音楽学部音楽学科声楽コース4年 前川裕紀子

私の夢は、歌で世界をバラ色にすることです。「本当にそんなことができると思っているのですか」という質問に、私は迷わず「イエス」と答えます。夢物語だと言われるかもしれませんが、それが私のライフワークだと思っています。

歌が好きで、好きで、大好きで歌い続けてきた私にとって、金賞受賞は大きな喜びでした。歌の道をあきらめざるを得ない時期もありましたが、それでも私の中では歌が脈打ち続けていました。歌の道を決めたとき、私は太陽のような歌声に出会いました。その人は、後に私の先生となるのですが、その歌声は私に蓋をしていて、あらゆるものを取り除き、後には情熱だけを残していました。歌には不思議な力があります。人の手が届かないところまで入って蓋を開けたら、心をハグしたりもします。私もいつか、人の心に触れることができるような歌を歌うことができるよう、金賞受賞をゴールではなく、新たなスタートとし、大きな夢の実現へとまい進していきたいと思っています。

**演奏会 日程**

- 2月8日(火)〜12日(土) インターナショナル冬期講習会
- 3月5日(土)14時 コーラス講座・キーボード講座修了演奏会
- 3月14日(月)14時 音楽学部・短期大学部音楽科卒業演奏会
- 3月20日(日)14時 文理OBオーケストラ第11回定期演奏会

# 海外研修生・留学生募集

## 英語研修の募集

2月14日(月)から3月7日(月)の日程で春期オーストラリア英語研修が予定されています。今回は英語暗誦コンテストの最優秀者2人を含む学生が参加を予定している。この研修は08年に本学と学術交流協定を締結したグリフィス大学のゴールドコースト校で行われ、今年が2回目の実施となる。夏のオーストラリアでの有意義な英語研修とホストファミリー宅での楽しい思い出が期待される。また、研修は短期集中型で研修効果が高いので、ふるって参加期間…2月14日(月)〜3月7日(月) 研修地…グリフィス大学(オーストラリア・ゴールドコースト) 研修費用…約31万円



夏休みを利用して海外で英語を学ぼうという「夏期カナダ英語研修」が今年度も昨年8月2日(月)から8月22日(日)までの21日間、バンクーバーのランガラ大学で実施された。本学からは英



2010 ENGLISH RECITATION CONTEST

12月9日(木)、徳島キャンパスアカンサスホールにおいて第二回英語暗誦コンテストが開催された。各キャンパスで予選を勝ち抜いた16人が本選に出場した。本選では、ウイリアム・シェイクスピアのハムレットの一節や、マザー・テレサのノーベル平和賞受賞式スピーチ、マイケル・ジャクソンの講演などバラエティに富んだ暗誦課題6編が用意され、各参加者がこれら

# 第二回英語暗誦コンテスト開催

## ハムレットやノーベル賞スピーチなどを英語で暗誦

中から1編を選択し暗誦した。厳正なる審査の結果、次の5人が各賞に選出された。

- ☆最優秀賞 山本理沙(総合政策学部 総合政策学科2年) 土居真理菜(文学部英語英米文化学科2年)
- ☆優秀賞 篠野由佳(人間生活学部 心理学科3年) 前川裕紀子(音楽学部音楽学科4年) 沼津 葵(文学部日本文学科2年)

入賞者以外の暗誦も全てレベルが高く、5人の審査員を大変悩ませた。また、審査会談中には音楽学部有志がミニコンサートを行ない、クリスマスソングなど5曲を披露しコンテストに花を添えた。コンテスト終了後は、昨年度最優秀賞に輝いた枝川茜(人間生活学

# 第1回朗読コンテストを開催



朗読し、審査を行うのである。当日、会場は「朗読」ということもあって、まさに水を打ったような静けさ。一人目の朗読が終わると、聴衆はもろろん客席で控えている出場者からも大きな拍手が起こった。朗読はただの音読ではなく、昨今やりの読み聞かせとも違う。また、パフォーマンスでもない。どのように読み、どのように表現すればよいか。何度目戸惑いを感じたことだろうが、皆よく練習していたのが伺えた。その成果が3分間に凝縮され、会場に張り詰めた緊張の糸は23人目の朗読が終わるまで途切れることはなかった。

聴衆の前に立つと抑えていた緊張が蘇り、私の足はガクガクと震えました。それでも席に着き本を開くと不思議と心は落ち着きました。まるで登場人物たちが「大丈夫」と励ましてくれているようでした。朗読では自分とは年齢も性別も異なる登場人物たちを声だけで演じ分けなければなりません。私が選んだ課題図書は、3人の人物が出てくるもので、それをどう表現するかということに重点をおいて練習を重ねました。自分が最優秀賞を取れたことに驚きつつ、審査員の先生が私の演じ分けを高く評価してくださったことを、とても嬉しく思いました。



皆さんも朗読なんて難しく、声を出すのは恥ずかしい。そんなことを言わないで、ぜひ挑戦してみてください。絶対に楽しいことを私が保証します。最後になりましたが、一緒に練習してくれた出場メンバー、審査員の先生方、そしてコンテストを見に来てくださった方々、ありがとうございました。

☆審査員特別賞 沼津 葵(文学部日本文学科2年) 工藤美紀(人間生活学部心理学科2年) ☆奨励賞 左子剛平(文学部日本文学科4年)

朗読コンテスト 最優秀賞を受賞して 文学部日本文学科2年 戸島 有唯

バッハやシューベルトなど華々しい演奏を披露

第53回定期演奏会開催

第53回定期演奏会が、12月4日(土)香川キャンパス村崎サメモリアルホール、5日(日)徳島キャンパスむらさきホールで行われた。



今回は本学の林俊昭教授が指揮を担当し、チェロの演奏や指揮活動で得られた体験などを例に解りやすく説明しながら、学生たちがいよいよといた音楽を伝えてくださった。

一曲目のブランドンブルク協奏曲3番BWV1048では大関博明氏をゲストコンサートマスターにお迎えし、しなやかで明るいイタリヤ色豊かなバッハを再現。続くカンタータBWV147「心と日々」のわざもてでは、ソプラノに卒業生の野間愛さん、4年生の前川裕紀子さん他をソリストに迎え、合唱とともに若々しいカンタータを演奏。

奏。スラブの民族音楽のリズムに乗って、華々しく演奏会を終えた。今年のプログラムは、聴き覚えのある曲が多くあり親しみやすいく、また変化に富んでいたと好評を得ることができた。

2日間で309社の参加を得て 学内合同企業説明会を開催

就職支援ユニット キャリア・サポートグループ



12月18日(土)、19日(日)の両日、30都府県より延べ309社の参加のもと、徳島キャンパス総合体育館を会場に本学全学生を対象とした学内合同企業説明会を開催した。

今回の説明会は、来年度に6年制薬学科と看護学科第一期生の卒業を迎えるのを機会に、9学部26学科を有する総合大学として、文系や理系、医療系など特色ある多くの学科で学んでいる、営業・事務・企画から製造・設計・福祉・研究・サービスといった職種や「チーム医療」を支える薬剤師・看護師・臨床工学士から管理栄養士・社会福祉士・音楽療法士等々の有能多彩な人材を企業に強くアピールし、幅広い職種での求人をお願いすることをめざした。

1日目は一般企業と病院あわせて155社に対し、2日目は、薬局154社の参加のもと、薬学科生が中心に熱心に説明を受け、質問を行っていた。中には、薬剤師以外の職種の募集もあり、食物栄養学科や心理学科などの学生の参加も見られた。

学生にも好評であったが、参加企業からも好意的な意見が多く、来年度も「参加したい」と90%超の企業が即座に意思表示をされた。また、ポランティアとして参加した就職内定済みの学部4年・短大2年の学生38人の活躍に対し、非常に多くの企業から高い評価をいただき、彼女らにとっても大きな励みとなった。

何かを乗り越えるときには、周りの人たちの支えがあるということ、就職活動とおして改めて実感しました。就職活動を始めるにあたって、初めてのことなので誰でも不安があったり、分からないことが多かったり、そのような時は、自分で調べたり考えたりすることも大切ですが、信頼できる先生方や、友だち・家族に頼ったり、話を聞いてもらうこともよいことだと思います。また、大学には就職活動をする際、ためになるサポートをしてくれる窓口がたくさんあります。

例えば、筆記試験や小論文対策に学力充実対策講座を受けたり、キャリア・サポートグループには私たち学生の相談に親身に乗り込んでくださる先生方がいらっしゃいます。私も大変お世話になりました。このように、自分が支えることよりも、支えられることの方が多いためですが、それを当たり前だと思わず、感謝の気持ちを持って、前向きに頑張ることが大切だと思います。

また、就職活動は、単に内定をとるためだけにやるものではなく、多くの同志と出会い、新たな経験をし、自分自身を大きく成長させる大切な機会とも言えるのではないのでしょうか。悔いの残らないように頑張ってください。

曲の幅を広げることができた オーストリア留学 【音楽留学体験記】

研究科 毛利美奈子



私は、8月15日(日)から29日(木)までオーストリアのライヒェンハウで行われたISA(インターナショナルサマリアカデミー)に参加しました。受講生は世界各国から来ており、普段とは違う環境で勉強と生活ができてとても刺激になりました。

ピアノを専攻している私は、マルティン・ヒューズ先生とゴッティエ

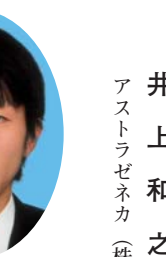
今回の研修で多くの経験ができたことは、私の大きな財産になりました。この体験をいかして今後も勉学に励み、人間的にも一層成長したいと考えております。



人間生活学部児童学科 喜多 真奈美 日本赤十字社徳島県支部保育士



総合政策学部総合政策学科 渡部 美沙 愛媛銀行



香川薬学部薬科学科 井上 和之 アストラゼネカ(株)



文学部文化財学科 香西 志保 香川県警

就職内定を得て

感謝の気持ちを忘れずに

就職活動という機会

自分を知る

目標に向かって

簡単に諦めるのではなく、思い切って挑戦してみよう

就職活動を終え、自分で足を運び、多くの企業に出会う機会をもつことが大切だと感じました。できるだけ多くの説明会に出向くことで、企業の情報だけでなく、業界の動向や現状、社風など新たな魅力を見出すことができました。私は、就職活動を進めるにあたって、どんなときでも就職活動を楽しむ姿勢をもつことを心がけていました。説明会や選考会では、今回ほどいろんな出会いや新しい発見があるだろうと本番に臨むようにしました。実際に就職活動を行ってみると、自信をなくすことや不安に思うことが多くあると思います。そんなときは、なにか前向きな考えを持つてみてください。そうすることでモチベーションも上がり、選考でも自分をしっかりとぶつけていけるとおもいます。

「向き・不向きより 前向きに!!」

山口 紀子さん 人間生活学専攻科卒業 吉野川市立山川中学校 養護教諭



みなさん、お久しぶりです。大学を卒業して1年が経ちました。着任当時を振り返ってみると、現場の経験もなく、右も左もわからない私は、300人という生徒数に不安で押しつぶされそう

でした。教科書を開いてみても、今自分が何をすべきなのか、具体的な答えはどこにも載っていません。生徒の訴えを聴き、そのニーズに応えるための知識や技術を持ち合わせていない...満足な対応もできない自分が情けなく、幾度となく落ち込むことがありました。しかし、周囲の先生方から励まされながら「向き・不向きより、前向きに!」この言葉を日々、かみしめながらがんばっています。

大学時代、多くの先生方から教えていただいた「学び続けることの大切さ」「子どもたち一人ひとりと最後まで向き合う姿勢」が今の自分の基盤となっているように思います。これからは、日々の積み重ねを大切に、目の前の子どもたちと向き合っていきたいと思えます。

# 第27回 おとぎのくにを 開催

短期大学部保育科

11月25日(木)と26日(金)の2日間にわたり、第27回「おとぎのくに」が短大保育科により開催された。会場のアカンサスホールは、附属幼稚園や近隣の保育所から招待した約600人の子どもたちで埋めつくされ、大盛況であった。

オープニングはクワイアチャイムによる演奏。チャイムの美しい響きに引き込まれるように会場内は静まり返っていた。ミュージカルでは登場人物の呼びかけに応えたり笑ったりと一体となつて楽しみ、わらべうたや手遊びでは子どもたちも手や体を動かして参加した。1時間半という長い上演時間にもかかわらず、終始笑い声や歓声がおこり、舞台上に集中して楽しむ様子が見られた。



「おとぎのくに」は伝統的に1年生が中心となつて運営してきたが、昨年からは2年生も参加し、保育科をあげて取り組む行事となった。2年生は経験をかして1年生に照明や音響機器の扱いを教えたり、子どもたちを会場へ誘導する場面ではさりげなく指示を出したりと先輩らしい動きをしてくれた。お互いに練習風景を見て刺激を受けることも多かったようだ。協力して一つの行事を成し遂げたことで多くの学びを得たとともに、「保育」という同じ道を志す先輩と後輩の強い絆が生まれたいことは収穫であった。

## 阿波踊り連がハーネス連から 感謝状を受ける

私たち徳島文理大学連は約80人の連員で成り立っており、また連員のうち6割が県外出身者で、徳島に初めて阿波踊りをする人がたくさんいます。私たちは毎週火・木曜日の練習で、楽しく元気に技術を磨いています。

夏本番の阿波踊りでは、ハーネス連様と一緒に踊らせていただきました。ハーネス連様は、視覚障がいのある方と、それを支える盲導犬とで編成された連です。ハーネス連様は、本番でも力強く笑顔で踊っていて動物たちも阿波踊りを楽しんでいるようでした。私たちもそんな姿に刺激を受け、若



さあふれるパワーで踊り鳴らせることができました。これからも阿波踊りの素晴らしさを大勢の方に知ってもらえるように、また「はな・はる・フェスタ」の8連覇をめざし、日々練習に励んでいきたいと思っております。

## クラブ・サークル大会結果

- 弓道部
  - 第17回徳島県大学選手権大会 優勝
  - 女子個人 優勝
  - 小松 愛(人間生活学部児童学科1年)
- 準硬式野球部
  - 四国地区大学準硬式野球秋季大会 優勝
- 女子バスケットボール部
  - 第57回女子全日本大学バスケットボール選手権大会 第3位
- 女子バレーボール部
  - 四国大学バレーボール秋季リーグ戦大会 第3位
- 卓球部
  - 秋季リーグ
  - 男子団体1部に昇格
  - 四国学生卓球選手権大会 女子団体 第2位

## 山城祭

# 大学祭

山城祭 10月22日(金)~24日(日)

杏樹祭 10月15日(金)~17日(日)

昨年の山城祭は、10月22日(金)から24日(日)の3日間の日程で開催しました。たくさんご来場いただき、ありがとうございました。『青春だCOLOR!!!』というテーマのもと、山城祭実行委員会をはじめ、参加のクラブ・サークル・学生は、何カ月も前から夜遅くまで準備・練習をしてきました。

山城祭に参加・ご来場いただきました全ての方に、模擬店・演技・演奏・展示等の学園祭から「青春」を感じる瞬間がありました。少しくらい「青春」を感じ、「山城祭に参加して良かった」と思ってもらえれば、山城祭実行委員会としてこれ以上嬉しいことはありません。

あいにく3日目の天候が



山城祭



杏樹祭

## 杏樹祭

第25回杏樹祭は10月15日(金)から17日(日)の3日間、「Music of Nihilism」何千億もの音楽をテーマとして開催しました。多くの方々の笑顔に出会い、成功を収めることができたことが、私たちが実行委員会にとって何よりの喜びとなり達成感を感じました。

初日は、クイズ大会など企画イベントで盛り上がり、軽音ライブでは日ごとの活動の成果が発揮されていきました。楽しいライブになりました。

2日目は、志度高校吹奏楽部のすばらしい演奏や香川出身のアーティスト、Eunikaさんのライブでは、大学のテーマソングを作ったという思いが

最終日は、水木一郎さんのライブでたくさんの方が集まり、「マジソング」などアニメソングを会場のみんなで歌いあげ、大変盛り上がりになりました。

3日間とも、多くのイベントと模擬店、そしてテーマである音楽的で多彩な出演者によるライブで文理大が熱気で包まれました。

私たちはたくさんの方の困難を乗り越えて杏樹祭を成功させることができました。これは杏樹祭を支えてくれた学生や教職員、そして地域や企業の方々のおかげです。本当にありがとうございました。これからもみなさんの心に残る杏樹祭になるように努力していきたいと思っております。

## クラブ・サークル紹介

### BBS

BBSとは、Big Brothers Sisters Movementの略で、心に悩みを抱えた青少年少女たちのお兄さん、お姉さんのような存在になり、「同じ目の高さ」で接しながら、社会との「橋渡し」となるような活動を行っているボランティアサークルです。

対象となる青少年少女と社会参加活動を通して交流を深めるため、社会との橋渡しとなるようなさまざまなボランティア活動を行っています。

少年たちとのふれあいの中では、多くの発見があり、少年たちとともに自らも成長できます。悩んだり反省したりすることもありますが、大変有意義な活動です。

その活動の一つが、科学

### レインボーの会

私たちはレインボーの会は、さぬき市を中心にさまざまなボランティア活動をしています。この数年は、少年たちとのふれあいの中では、多くの発見があり、少年たちとともに自らも成長できます。悩んだり反省したりすることもありますが、大変有意義な活動です。

その活動の一つが、科学



BBS



レインボーの会

## イルミネーション点灯式

今年で5回目となった本学の冬の風物詩・イルミネーションの点灯式が、徳島キャンパスで12月1日(水)、香川キャンパスで12月3日(金)に開催された。徳島キャンパスでは藤木副学長の挨拶のあと、村崎理事長、藤木副学長、学生代表の突永真琴(音楽学部音楽学科2年)さんの3人により、司会と観客のカウントダウンに合わせて点灯のスイッチが押された。徳島県内最大の34万球のLEDで彩られたキャンパスは、一気に幻想的な雰囲気になり、詰めかけた学生や近隣住民、家族連れなど約1000人の観客が



から歓声が上がった。点灯後はBunri Handベルクワイアによるハンドベルの演奏や音楽部によるフルートやサクソフォンのアンサンブルもあがり、点灯式を盛り上げた。

一方、香川キャンパスでは水野未鈴(文学部英語英米文化学科2年)さんの司会により、志度小学校の生徒によるマーチングバンドで開幕。中島副学長の挨拶、学生代表の挨拶、志度中学校・志度小学校の代表、学生代表により点灯のスイッチが入れた。正門からキャンパスへと続く坂道に7万球のイルミネーションが灯つ

体験教室の開催です。私たちは、知的障がい者や子どもを対象とし、誰でも楽しめるような企画を考えようとしています。昨年度の活動から、「きれい」「おいしい」「触れる」といった五感を刺激するような体験が効果的であることがわかり、最近では「レインボーの会」にちなんで7色のスライム作りや、綿あめ作りを行いました。

昨年、さぬき市ボランティアネットワークと協力して「みんなD Eみんなのボランティアまつり」の企画・運営に初めて参加しました。その中でさまざまな体験をし、多くの人と触れ合うことができました。また、私たちの活動を地域の方の前で発表させていただき、自分たちの活動を振り返る良い機会となりました。

これらの他にも、防犯ボランティアへの参加や、杏樹祭における鳥骨鶏の焼き鳥の販売など、さまざまな活動を始めました。これからもどんどん新しい活動に挑戦していきたいと思っております。